

医療安全情報「つなぐ」No 8

発行日：平成30年4月20日
発行元：長崎県 医療政策課
担当者：立川、清水
連絡先：095-895-2464

長崎県医療安全相談事例集

長崎県庁及び県内の各保健所に、患者・ご家族等からの相談・苦情に中立的な立場で対応する医療安全相談センターを設置しています。医療機関に対する不安や疑問、病状説明の受け方等に関する相談を受けています。

このようなさまざまな相談に対応するために、長崎県では平成28年3月に相談事例集を作成し、各病院様へもお送りしているところです。その内容は、相談事例、医療安全相談センターの対応に対するコメント、医療機関の対応に対するコメントという構成になっており、医療機関の皆様にもご活用いただける内容となっています。

さらに、「キーワード検索」がありますので、簡単に単語から関係する相談事例を検索することが可能です。日頃、相談を受ける際の手助けとなるものと思います。各病院様の多くの職員様に共有していただければ幸いです。なお、相談事例集は長崎県のホームページにも掲載しておりますので、そちらもご活用いただければと思います。

[長崎県]→[組織で探す]→[医療政策課]→[医療安全相談センター]→[長崎県医療安全相談センター相談事例集]

さて、今回は「長崎百合野病院」様の「医療事故防止ノート」についてご紹介いたします。職員のポケットマニュアルのような「医療事故防止ノート」。どのような経緯で作成されたか、また、どのように活用されているか、ご一読いただき、業務の参考にいただければ幸いです。

「医療事故防止ノート」 長崎百合野病院 医療安全管理室 山田富美子



写真1 長崎百合野病院

1 病院の特徴

当院は、長崎市北部に位置し、病床数160床（7対1病棟60床、地域包括ケア病棟52床、回復期リハビリ病棟48床）の、整形外科の診療を中心とした急性期病院です。また、二次救急病院として24時間365日、救急患者を受け入れる体制も整えています。

病院の理念である

- ①人にやさしい、温かい病院
- ②安全で質の高い医療、品格のある病院
- ③地域から信頼され、選ばれる病院

を目指して職員一丸となって努力しております。

2 「医療事故防止ノート」の導入の経緯

2008年4月に初版を発刊いたしました。

当時、提出されるインシデントレポートのほとんどが看護師のレポートで占められ、その発生要因の多くは「確認ミス」「手順の不徹底」でした。話を聞くと「マニュアルがあるのは知っているが、分厚い冊子で、その中から手順を探し、ゆっくり確認する時間はない。」等の声が多く聞かれていました。

そこで、必要とする情報をすぐに手元で確認できれば、今提出されているレポートの数を減らしていけるのではないかと考え、前任の医療安全管理者と話し合い作り上げたのがこの医療事故防止ノートでした。

初版のノートは、実際に間違いが起りやすいこと、起こってしまったら重大な結果につながりかねないものからピックアップし、口頭指示に関すること、与薬、注射、輸血、インスリン及び人工呼吸器管理等の項目について、その手順や注意すべきことを掲載しました。

また、BLS（一次救命処置）やハリーコール（緊急呼び出しコール）の方法、針刺し事故が起きた時の対応、

クレームを受けた時どうしたらいいか等のいつもあるわけではないが、知っていると思われたい情報も入れ込みました。そして、いつでも白衣のポケットに入れて携帯できるようにするために、**B6版のポケットサイズ**にし、看護師全員に配布しました。

3 どのように活用しているか

初めは看護師だけが携帯していましたが、医局やリハビリ科、事務部門などからも「自分たちにも配布してほしい」との依頼があり、数年前から、職員であれば、職種に関係なく希望者に配布し院内に広がっています。

それに伴い、掲載する内容も医療技術にかかわることだけではなく、**職業倫理**に関することや**SNS**を利用するときの注意点、**防災**に関すること（例：停電時にどう動けばいいか）、火災のときの**消防設備**の使用方法等、病院で働く職員として最低限知っておかなければいけないことも書き足しました。

このように、改訂版を発刊するたびに、掲載する内容も増え、初版は50ページほどであった「医療事故防止ノート」が、2016年度に発刊した5冊目は99ページを超えるほどになりました。

改めて、今までのノートを見直してみると、その時々で、問題になったことや新しく決めた手順等のページを随時加えており、この医療事故防止ノートを、医療安全を確保していくための周知対策として活用してきたことが分かります。

新人教育においても、技術チェックリストとリンクして活用してまいりました。

また、2016年から医療事故防止ノートと手指消毒用アルコールを一緒に携帯できるように、看護部にはウエストポーチが病院から支給されました。

4 使用しての各部署の反応

常に携帯して業務を行っている看護部からは、「何かを実施する際に、不安な時やわからない時にはまずノートを見て確認している」「先輩に指導をするとき一緒にノートを開いて確認しながら説明している」「輸血の手順の確認」や「ポンプの適応の確認」「インスリンや抗凝固薬について調べるとき活用している」等の意見があります。また、「基本的なことから火災時など緊急時のことまで載っているので助かる」「最新の情報で確認できるものが身近にあるのは心強い」等の声もいただいています。

医師の入力作業を代行する医師事務からは、「抗凝固薬の手術前後の休薬期間の目安や難しい漢字の医療用語、院内で使用される略語一覧をよく確認している」との報告をもらっています。また、「クレーム対応や110番通報手順、SNSガイドライン、電話対応、停電時・火災時の対応」等も役に立つとの評価をもらっています。

リハビリ科からは、「他部署の業務内容も知ることができる」「困った時にすぐ使えるところが便利」「スタッフ間での勉強会の資料として利用しやすい」「新人教育に活用している」等の意見をもらっています。

ただ、ポケットに入れておくには、それだけでポケットがいっぱいになるのでサイズが少し大きいという



写真2 医療事故防止ノート



写真3 ウエストポーチ

意見もあります。

当初の目的だった、確認ミスによるインシデントの減少はどうかといえば、報告されるインシデントレポートの数が2倍以上に増えていますので単純に比較することはできません。

しかし、色々な場面で活用されているところを見ますと、当院の医療安全対策の推進には役に立っていると言えるのではないかと思います。

5 課題及び今後の展開

業務の安全な実施のために、あれもこれもと盛りだくさんになってきた医療事故防止ノートですが、すべてを手作業で制作しているため、ページが多くなりすぎると、ホッチキスでの製本が困難な状況になってきています。すでに、初版に入れていたフィジカルアセスメント(身体診察技法)のページは本編から抜いて別冊を作成しています。

あれもこれでも、膨らみすぎて持ち歩けなくなれば、それは本末転倒というもの。これからは掲載内容を吟味して、本当に必要なものだけを再編していくことが必要になってくると思われま。

当院の医療事故防止ノートについてのお尋ねは医療安全管理室がお受けいたしますのでご連絡ください。

2017年度も終わり、医療安全相談センター(以下センター)に相談のあった相談件数の集計時期となっています。今回は、医療安全支援センターの現状についてお知らせしたいと思います。

センターの設置は、2003年の医療法施行規則の改正によって始まりました。その後、2006年の医療法改正でセンターの設置が努力義務化され、2007年にセンターの運営要領が取りまとめられました。長崎県においても2003年4月から設置を進めてきました。

現在、センターの数は全国に383箇所(2017年12月1日現在)設置され、長崎県内においても11箇所設置されています。

センターの目的の中には「患者・住民と医療提供施設との信頼関係の構築を支援するように努めること。」とあります。医療を「受ける側(患者等)」と「提供する側(医療機関)」の両者に関り、中立的な立場から支援を行っています。

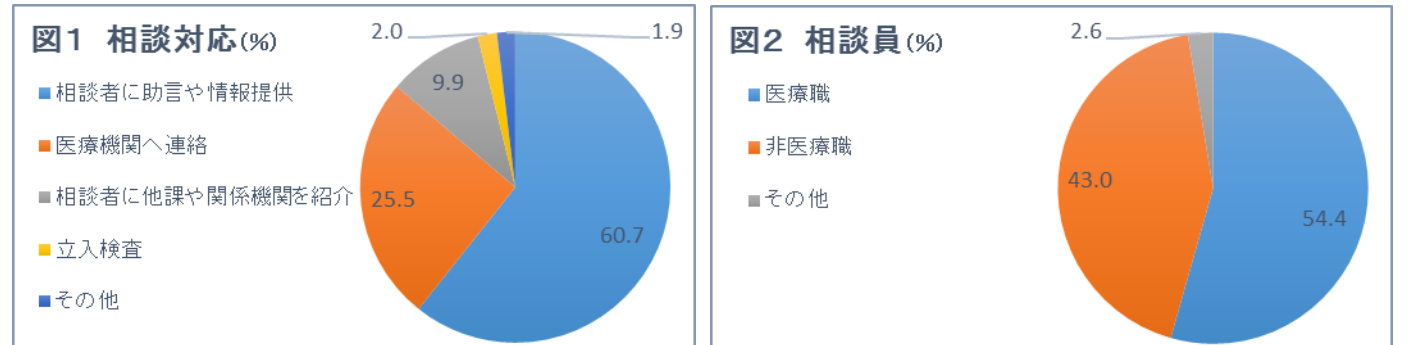
◆患者・住民(医療を受ける側)に対して

医療安全に資する幅広い情報の提供等により、診療における患者の主体的な自己決定の支援や医療安全の推進のための患者・住民の参加を促すなど意識の啓発を行う。

◆医療機関(医療を提供する側)に対して

医療安全に関して研修の実施及び意識の啓発を行う。

さて、その業務の現状(相談対応)についてですが、2016年度センター運営調査結果(全国)を一部抜粋してお知らせいたします。



相談対応については、「相談者に助言や情報提供」が約6割となっています(図1)。また、相談員は様々な職種で構成されています。職種は大きく二つに分かれ、医療職54.4%(看護師・保健師・助産師・薬剤師・診療放射線技師・医師・歯科医師・社会福祉士など)と非医療職43.0%(事務・行政官)となっています(図2)。勤務形態も専任・兼任と違いがあり、専任に従事させているセンターは全体の10%にとどまっています。

最後になりますが、センターを総合的にバックアップするために、東京大学大学院医学系研究科医療安全管理講座(厚生労働省補助事業「医療安全支援センター総合事業」)があります。その講座の中のジョイントミーティング(JM)全国大会(2018年2月27日開催)で、長崎県医療安全相談センターが2016年2月に作成し、県内の医療機関に配布しました「相談事例集」について報告する機会をいただきました。他の自治体からは「相談事例集」の作成についての問い合わせが相次ぎました。繰り返しになりますが、「相談事例集」を皆様にご活用いただきますことをお願いしまして、今回の「医療安全支援センターあれこれ」の結びとさせていただきます。

2018年度版 医療事故防止ノート

| | |
|---|---------------------------------------|
| 1 病院の理念 看護部の理念 患者の権利と義務 | 31 病室の管理 |
| 2 感染管理 | 32 同種作業の管理 |
| 3 説明と同意 | 33 輸血 指示から払い出し、終了までの流れ |
| 4 患者参加の医療安全 患者相談防止対策 | 34 輸血 実施手順 |
| 5 時刻合わせ | 35 輸血 自己血輸血の取り扱い |
| 6 口頭指示受け手順 口頭指示受けメモの使い方 | 36 輸血 ルートのセット方法 |
| 7 患者参加の医療安全 患者相談防止対策 | 37 輸血 チェックリスト |
| 8 薬剤投与時の確認方法 | 38 シンシシライディングスケール ①施設内スケール ②在宅療養時の使用 |
| 9 作業手順 | 39 病院採用のインシデント ①発生防止 ②発生時の対応 |
| 10 内服薬に関するきまり 指示受け | 40 転倒転落発生時の対応フローチャート |
| 11 内服薬に関するきまり 管理方法 | 41 身体検査のフローチャート |
| 12 内服薬に関するきまり 実施記録 | 42 介護職員の事故防止対策について |
| 13 待合室に関するきまり | 43 院内感染の安全管理 |
| 14 内服薬の準備の仕方 | 44 院内感染の発生 ①院内感染の発生 ②院内感染の発生 ③院内感染の発生 |
| 15 自己管理薬の確認フローチャート | 45 急病時の対応 ①急病時の発生 ②急病時の発生 |
| 16 注射手順 | 46 緊急発生時における安全なチューブ挿入方法と注入可能な要件 |
| 17 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 47 人工呼吸器 アラーム対応 |
| 18 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 48 気管吸引 |
| 19 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 49 除菌薬の交換手順 |
| 20 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 50 除菌薬の交換手順 |
| 21 シンシシライディングスケール | 51 除菌薬の交換手順 |
| 22 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 52 除菌薬の交換手順 |
| 23 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 53 除菌薬の交換手順 |
| 24 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 54 除菌薬の交換手順 |
| 25 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 55 除菌薬の交換手順 |
| 26 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 56 除菌薬の交換手順 |
| 27 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 57 除菌薬の交換手順 |
| 28 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 58 除菌薬の交換手順 |
| 29 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 59 除菌薬の交換手順 |
| 30 検査準備(血液検査 ①検査の目的 ②検査の種類・検査方法を把握) ③検査の種類・検査方法を把握 ④検査の種類・検査方法を把握 | 60 除菌薬の交換手順 |

写真4 医療事故防止ノート(目次1)

| | |
|--|--------------------------|
| 61 感染防止対策 疾患別発生時の対応 | 92 memo |
| 62 感染防止対策 嘔吐物の処理方法 | 93 memo |
| 63 感染防止対策 汚染事故(針刺しなど)発生時の対応手順 | 94 PMS 朝のラウンド時に実施したいこと |
| 64 薬剤 よく使用される薬物管理の警告・緊急事項 | 95 自立判定基準 認知判定基準 |
| 65 薬剤 名前が似ている薬剤 処方箋を誤りやすい薬剤 | 96 年齢別発生率2016年度版 |
| 66 薬剤 調剤時、発注時に注意を要する薬剤 | 97 消防設備 平面図 消防設備 |
| 67 薬剤 抗凝固剤(抗血小板薬)の副作用発生時の対応 | 98 消防設備 平面図 東1 西1 |
| 68 薬剤 抗凝固剤(抗血小板薬)の副作用発生時の対応とヘパリンの解毒剤ヘパリン | 99 消防設備 平面図 東病棟2階 西病棟2階 |
| 69 薬剤 抗凝固剤(抗血小板薬)の副作用発生時の対応とヘパリンの解毒剤ヘパリン | 100 消防設備 平面図 東病棟3階 |
| 70 用語 院内でよく使用される略称 難しい漢字の医学用語 他 | 101 消防設備 平面図 東病棟2階 西病棟2階 |
| 71 用語 院内でよく使用される略称 難しい漢字の医学用語 他 | 102 緊急時連絡 |
| 72 患者相談・クレーム等 患者相談対応のフローチャート | 103 memo 改訂記録 |
| 73 患者相談・クレーム等 患者相談対応のフローチャート | |
| 74 患者相談・クレーム等 患者相談対応のフローチャート | |
| 75 110緊急発生手順 | |
| 76 シンシシライディングスケールのガイドライン | |
| 77 緊急発生時対応 緊急発生時対応のフローチャート | |
| 78 緊急発生時対応 緊急発生時対応のフローチャート | |
| 79 防災 非常時の対応について | |
| 80 防災 非常時の対応について | |
| 81 防災 非常時の対応について | |
| 82 防災 非常時の対応について | |
| 83 防災 非常時の対応について | |
| 84 防災 非常時の対応について | |
| 85 医療安全管理 組織図 | |
| 86 医療安全管理 報告 インシデントレポート 表 | |
| 87 医療安全管理 報告 インシデントレポート 裏 | |
| 88 医療安全管理 報告 インシデントレポート 裏 | |
| 89 医療安全管理 報告 転倒転落関連インシデントレポート | |
| 90 医療安全管理 報告 報告書(ヘルム以上) | |
| 91 memo | |

写真5 医療事故防止ノート(目次2)

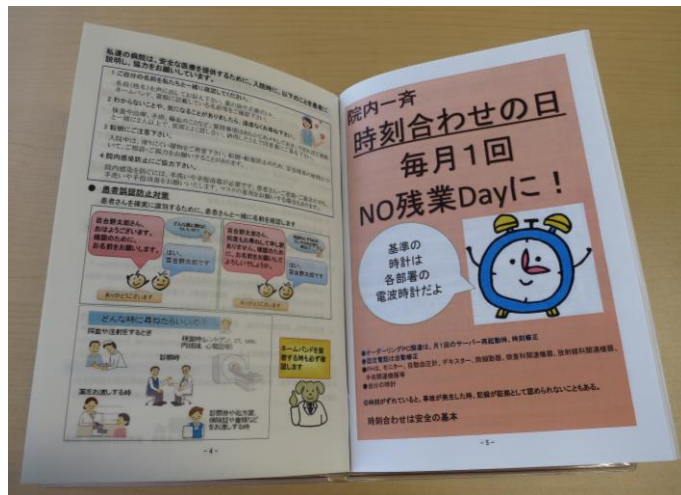


写真6 医療安全事故防止ノート(時刻合わせの日)



写真6 看護部医療安全推進担当者メンバー